

春AB 1226151

# 社会基礎学～グローバル人材に不可欠な教養Ⅰ

オーガナイザー教員 ● 野村 港二 (生命環境系・教授)

第1回  
**4/21**  
【土】  
13:00~16:40

## 【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針

**徳永 保** *Tamotsu Tokunaga*

筑波大学 特命教授

**プロフィール** 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。1991年-1992年米国連邦政府・国立科学財団(NSF)に派遣。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)などを立ち上げた。主な著書に『グローバル人材育成のための大学評価指標』(2011)などがある。

**坪内 孝司** *Takashi Tsubouchi*

筑波大学教員 システム情報系教授／教育企画室長

**プロフィール** 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。ロボット工学、特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が専門。本リレー講義には教育企画室長として関わっている。神奈川県出身。主な著書に『はじめてのロボット創造設計』をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダー演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

## 【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い

**三浦 潔司** *Kiyoshi Miura*

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

**プロフィール** 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。



### 【パネルディスカッション】【第1部】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

### 【パネルディスカッション】【第2部】

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

**吉村 麻央** *Mao Yoshimura*

パネリスト

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

**プロフィール** 早稲田大学在学中、米コロンビア大学短期留学。政策担当秘書資格試験に合格。多くのアルバイトを経験し、卒業後、石破茂事務所勤務、在職21年。国務大臣防衛庁長官秘書官などを務め、公務にて海外出張を多数経験。陸上自衛隊予備自衛官として15年間登録(一昨年退職)。尊敬する人(?)はヨータ。

**中村 宏之** *Hiroyuki Nakamura*

パネリスト

(株)読売新聞大阪本社 編集委員

**プロフィール** 1991年、読売新聞東京本社入社。経済部、政治部、ロンドン特派員、ハーバード大学国際問題研究所研究員、経済部デスク、調査研究本部主任研究員、メディア局編集部次長を経て、2017年11月より読売新聞大阪本社編集委員。主な著書・共著に『御社の寿命』、『世界を切り拓くビジネス・ローヤー』(中央公論新社)、『ドキュメント 金融庁vs.地銀』(光文社新書)など。

**坪内 孝司** *Takashi Tsubouchi*

パネリスト

筑波大学教員 システム情報系教授／教育企画室長

**プロフィール** 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。ロボット工学、特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が専門。本リレー講義には教育企画室長として関わっている。神奈川県出身。主な著書に『はじめてのロボット創造設計』をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダー演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

**徳永 保** *Tamotsu Tokunaga*

パネリスト

筑波大学 特命教授

**プロフィール** 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。1991年-1992年米国連邦政府・国立科学財団(NSF)に派遣。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)などを立ち上げた。主な著書に『グローバル人材育成のための大学評価指標』(2011)などがある。

**三浦 潔司** *Kiyoshi Miura*

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

**プロフィール** 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。

**野村 港二** *Koji Nomura*

コーディネーター

筑波大学教員 生命環境系教授／大学院共通科目委員会委員長

**プロフィール** 1988年秋田県立農業短期大学講師、1991年より筑波大学で教えている。植物生理学、特に分化全能性が専門。本リレー講義には大学院共通科目委員長として関わっている。東京都出身。趣味：サボテンづくり、自転車の組み立て、大工仕事。

**講義概要** グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。



## グローバル化とは何か～ Society 5.0, SDGs, そして統合イノベーション戦略を事例に

進藤 秀夫 *Hideo Shindo*

内閣府 大臣官房審議官 (科学技術・イノベーション担当)

**プロフィール** 1986年通商産業省(現・経済産業省)入省。(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構・ワシントン事務所長、経済産業省・産業再生課長、同省・紙業生活文化用品課長、同省・大学連携推進課長、(独)産業技術総合研究所・企画本部副本部長、東北大学・理事(産学連携担当)などを経て、2016年7月より現職。神奈川県出身。趣味:よく食べ眠り、そして歩くこと。

**講義概要** グローバル化とは何かについて、Society 5.0, SDGs, そして策定途上の統合イノベーション戦略を事例に考察する。グローバル化・グローバル人材とは何かについての基本的理解とともに、イノベーションの重要性、将来社会像としてのSociety 5.0, そしてグローバルな目線でイノベーション戦略を立てることの重要性と困難さについての理解を深めることを目的とする。

## 地球温暖化・エネルギー問題に関して

丸川 裕之 *Hiroki Marukawa*

(一社)日本プロジェクト産業協議会 専務理事

**プロフィール** 1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鉄(現・新日鉄住金)入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

**講義概要** 環境学は、自然科学だけでなく政治・経済・経営・社会・倫理学等、極めて学際的な分野である。とりわけ地球温暖化問題はその色彩が強い。1990年代から今日、更に2030年、2050年を念頭において、今後のCOPの国際交渉と日本国内の温暖化・エネルギー問題を、皆さんと一緒に考えてみたい。

第2回

5/19

[土]

14:00~17:00

## 途上国・新興国に対する日本の開発協力～地方発の双方向国際貢献の可能性

江島 真也 *Shinya Ejima*

(独)国際協力機構(JICA) 理事

**プロフィール** 1983年海外経済協力基金(OECF)採用。組織改編に伴い国際協力銀行(JBIC)を経て2008年10月よりJICA勤務。2016年10月より現職。この間、東南アジアや南アジアの開発途上国への政府開発援助(ODA)、とりわけ有償資金協力(円借款)を通じたインフラ整備に従事。在外経験はタイ、フィリピン、スリランカ、インドと通算12年。最近の趣味はインド時代に始めたポリウッドダンス。

**講義概要** 世紀の変わり目前後に日本の途上国援助が10年以上にわたり世界一だったことをどれだけの方が記憶しているだろう。最近の世界4～5位という実績はわが国の国力低下の反映なのか、途上国が援助を必要となくなったのか、はたまた新興国の援助が日本にとって代わったのか…開始から60年以上になる日本の政府開発援助(ODA)を振り返りつつ、わが国に期待される開発途上国・新興国への支援のあり方や地方発の双方向の国際貢献の可能性について、途上国の実情を踏まえながら考える。

## 人口減少先進地域における政策展開

和泉 晶裕 *Akihiro Izumi*

国土交通省 北海道開発局長

**プロフィール** 1986年北海道開発庁(現国土交通省)入庁。国土庁にて首都移転、業務核都市などを担当、阪神淡路大震災担当大臣特命室にて復旧を担当、関東地方整備局横浜国道事務所長、国土交通省北海道局地政課長など主に道路政策担当部署を経て、2017年7月より現職。第8期北海道総合開発計画(平成28年閣議決定)に基づく河川、道路、港湾、農業の整備や観光や物流の推進施策を実施。

**講義概要** 全国より10年以上早く人口減少が始まった北海道において、「食」と「観光」を戦略的産業とし「世界の北海道」を目指すための政策展開とその原動力となる地域住民との協働施策「シーニックバイウェイ北海道」の2001年の立ち上げから今日までの取り組みを紹介する。

第3回

6/2

[土]

13:30~16:30

## 総合商社のビジネスモデルと人材育成

島崎 豊 *Yutaka Shimazaki*

丸紅(株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長

**プロフィール** 1982年丸紅(株)入社。海外におけるインフラ施設の建設および投資事業に従事し、特に上下水等の水ビジネスを先かけて推進。経営トップの財界・社外活動の補佐業務や社業の広報活動に従事。日本創生委員。慶応義塾リーディング大学院特任教授。日本秘書協会理事。東京都出身。学生時代:体育会グランドホッケー部所属。趣味:スイミング、ゴルフ。

**講義概要** 総合商社がグローバルに展開している「トレード」と「事業投資・経営」と、それらを支える新しい人材育成について考える。

## 日本経済を読み解く「鍵」

岡部 央 *Hiroshi Okabe*

(一社)共同通信社大阪支社 支社長

**プロフィール** 1983年に共同通信に入社し、日銀、財務省、首相官邸、経済産業省、外務省などで経済政策を担当。1997年から3年間、ワシントン特派員として、アジア金融危機などの取材を経験した。経済部長、総務局長兼人事労務部長、編集局次長を経て、2017年6月より大阪支社長を務めている。日本の「今」を、海外に情報発信する英文雑誌の編集委員も務めた。京都市出身。

**講義概要** 経済の動きを知ることは、社会で活躍していくために不可欠な教養の一つです。日々の経済ニュースを、どのように読み、理解していけばいいのか。最新の経済動向を踏まえながら、日本経済を読み解く「鍵」を解説します。

第4回

6/16

[土]

13:30~16:30

## 国際関係の新たな変容相と産業界の対応

— 国内への影響をどう捉え創造的対処を試みるか —

太田 誠 *Makoto Ota*

21世紀政策研究所 事務局長

**プロフィール** 1986年 経団連事務局入局。国際経済本部調査役(北東アジア、ロシア担当)、産業政策本部次長(産業政策、国際物流政策担当)、国際協力本部副本部長(韓国担当)を経て、2012年より現職。1991年～95年ソウル駐在。2014年 博士号(学術/東北大学)取得。専門は李氏朝鮮の外交思想と行政過程論。

**講義概要** 日本の国際プレゼンスを将来に亘って維持・向上させるためには何が必要か。本講では、産業界における政策実務と学術との接点領域から、企業の創意が国力の主要な構成要素であることを再確認しつつ、欧州等で見られる構造変化や新興国による影響力の浸透など一見迅速に思われる国際社会の変容が、産業活動や国内の諸問題に直結する事態を捉えそのメカニズムを考察する。あわせて対処の可能性についても検討する。

## 第4次産業革命とロボット・ドローン

～ connected industries の実現による society5.0 の確立に向けて～

片岡 隆一 *Ryuichi Kataoka*

経済産業省 製造産業局 産業機械課長

**プロフィール** 1993年通商産業省入省。通商白書2010の執筆責任者、マクロ経済政策の司令塔事務局(経済対策・経済見通し、内閣府に外向)、日本経済再生に向けた成長戦略(内閣官房日本経済再生総合事務局に外向)、マクロ経済の調査分析(経済産業政策局調査課長)、財政健全化等(財務省主計局参事官に外向)を経て、2016年6月より現職。

**講義概要** 日本は、世界最速で少子高齢化が進展する一方で、世界の成長センター・アジアに位置し、中国とも近い。日本の再生に向けて、失われた20年とされるデフレから脱却し、地方創生・経済再生と財政健全化の両立を同時に達成するためには、国内・対外の双方で不断イノベーションが求められる。経済財政、少子高齢化・地方創生、ITの進展・グローバルイノベーションなど、わが国を取り巻く構造的な課題と必要な取組について考察する。

第5回

6/23

[土]

13:30~16:30

秋AB 1G26031

# 社会基礎学～グローバル人材に社会が求める教養

オーガナイザー教員 ●五十嵐 浩也 (芸術系・教授、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長)

第1回  
**10/6**  
【土】  
13:30~16:30

## 【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い

### 三浦 潔司 *Kiyoshi Miura*

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

**プロフィール** 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。

## 【パネルディスカッション】【第1部】 グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

## 【パネルディスカッション】【第2部】 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

### 石川 貴之 *Takayuki Ishikawa*

【パネリスト】

(株)日建設計総合研究所 理事 上席研究員

**プロフィール** 1987年日建設計入社。京セラドーム周辺、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年より(株)日建設計総合研究所にて東アジアを中心に低炭素都市業務に従事し、近年は官民連携の海外展開支援の仕事を中心にロシアにおけるスマートシティ計画にも携わっている。山口県出身。学生時代はバスケットボール一色。現在は週一のジム通いで体型をかるうじて維持。

### 中原 淳 *Jyun Nakahara*

【パネリスト】

首都高速道路(株) 取締役常務執行役員

**プロフィール** 1987年東京大学法学部卒、建設省入省。ゼネコンの経営再生や道路公団等の民営化等を担当する一方、外交官としてニューヨークで米大統領選挙の分析、静岡県でまちづくりに携わる。その後、国土交通省 大臣秘書官、PFI/PPPを担当する官民連携政策課長、インフラ老朽化等を担当する参事官等、道路局総務課長を経て、現在、首都高速道路(株)取締役常務執行役員に就任。趣味は、ヴァイオリン演奏、音楽鑑賞、登山、ワインなど。

### 五十嵐 浩也 *Hiroya Igarashi*

【コーディネーター】

筑波大学教員(芸術系・教授)/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長

**プロフィール** GKインタストリアル・デザイン研究所、富士ゼロックスデザイン研究所を経て、筑波技術短期大学聴覚部デザイン学科、そのうち現職。

**講義概要** グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。



### 平石 和昭 *Kazuaki Hiraishi*

【パネリスト】

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株) 副社長

**プロフィール** 1984年(株)三菱総合研究所入社。運輸政策研究所やアジアパイプライン研究会への出向等を経て2016年10月より現職。この間、新幹線等大規模交通インフラの需要予測・経済効果分析、北東アジア天然ガスパイプラインの企画・構想立案、社会インフラ海外展開等のプロジェクトに参画。専門は、土木計画、交通経済、エネルギー経済。広島県出身。趣味：ゴルフ、テニス、音楽鑑賞、散歩。

### 三浦 潔司 *Kiyoshi Miura*

【パネリスト】

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

**プロフィール** 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担い、工場の統廃合を経験。2016年より現職。

## 第一次産業を通じた成長戦略

### 末松 広行 *Hiroyuki Suematsu*

経済産業省 産業技術環境局長

**プロフィール** 1983年農林水産省入省。農林水産大臣秘書官、総理官邸内閣参事官、食料安全保障課長、林野庁林政部長、関東農政局長、農村振興局長などを歴任し、2016年6月より現職。埼玉県出身。著書『解説 食品リサイクル法』大成出版社、『食料自給率のなぜ』扶桑社新書、『逐条解説 公共建築物等木材利用促進法』大成出版社。

**講義概要** 世界の価値の多様化・高度化が進む中で日本の地域資源を活用した経済活動は地域と日本全体の成長に多く貢献する可能性を持っている。

## さいはての地域経営

### 泉谷 満寿裕 *Masuhiko Izumiya*

珠洲市長

**プロフィール** 1964年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。1987年野村證券株式会社に入社。1995年4月に退社し、家業の泉谷菓子舗を継ぐべく珠洲市に帰る。青年会議所やNPOを通じ、地域おこし活動に傾注。2000年の珠洲市長選挙に立候補するも落選。その後、NPOすず交流ビューロー理事長、珠洲生必株式会社社長などを経て2006年の珠洲市長選挙に初当選。現在3期目。

**講義概要** 石川県能登半島の先端に位置する珠洲市。昭和29年の市政発足時には人口が約3万8千人だったが、現在は約1万5千人まで減少。少子高齢化と人口減少が著しく進み、移住・定住の促進に向けて、地域のあらゆる資源を活かし市民と行政がとれに取り組む「地域経営」を推し進めてきた。さらに、珠洲市の魅力を高めるために、昨年秋に「奥能登国際芸術祭」を開催。地方創生に向けた具体的な取り組みから、自治体行政の現状を考える。

第2回  
**10/13**  
【土】  
13:30~16:30



## 日本外交の現状と課題

森 健良 *Takeo Mori*

外務省 外務審議官

**プロフィール** 1983年外務省入省、在ドイツ日本国大使館参事官、国際法局条約課長、外務大臣秘書官、北米局北米第一課長、総合外交政策局安全保障政策課長、総合外交政策局総務課長、在アメリカ合衆国日本大使館公使、経済外交担当大使、北米局長などを歴任し、2018年1月より現職。東京都出身。趣味：ゴルフ、テニス。

**講義概要** 中国が台頭し、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交が直面する課題について紹介する。

## 企業経営の現状・課題と戦略

右田 彰雄 *Akio Migita*

新日鐵住金(株) 常務執行役員 人事労政部長

**プロフィール** 1984年新日本製鐵(株)(現 新日鐵住金(株))入社。本社および複数製鉄所において主に人事・労働・外注管理等を担当後、2009年プリキ営業部長、2011年薄板営業部長を経て、2015年人事労政部長、2017年常務執行役員(現職)。他、(公社)東京労働基準協会連合会 理事、(一財)企業活力研究所 雇用・人材開発委員会委員長等を兼務。

**講義概要** 本講義では、下記を中心に紹介し、日本のものづくりが目指す成長戦略について考察してみたい。①「鉄」という素材の多様な特性・魅力②オイルショック・プラザ合意以降の超円高・リーマンショックなどの幾つもの危機を日本の鉄鋼業が如何にして乗り越えてきたかの事例③今後想定される日本鉄鋼業を取り巻くグローバルイズムへの対応・CO2問題・少子高齢化等の課題への取り組み

第3回

10/27  
[土]

13:30~16:30

## サービス産業等の生産性向上について

守山 宏道 *Hiromichi Moriyama*

経済産業省 サービス政策課長

**プロフィール** 京都府生まれ。東京大学法学部卒業、1995年通商産業省入省。2006年コロンビア大学国際公共政策大学院卒業(公共経営学修士)、外務省OECD日本政府代表部一等書記官、中小企業庁国際室長、資源エネルギー庁国際エネルギー戦略室長、内閣府宇宙戦略室参事官を経て、2017年より経済産業省サービス政策課長(現職)。

**講義概要** 我が国経済は、世界経済の活力の積極的な取り込み、少子高齢化や第4次産業革命への対応等を図りつつ、安定的成長を現実にしていくことが課題。特に、人手不足問題が顕著になっている中、働き方改革も実現していくためには、我が国産業の生産性の向上が不可欠。政府としては、平成30年度から3年間を政策集中期間として、生産性の向上に取り組んでいる。本講義では、その具体的取り組みの背景や方向性について扱う。

## 日本を取り巻く安全保障環境と防衛政策

市川 道夫 *Michio Ichikawa*

防衛省 大臣官房 広報課長

**プロフィール** 1993年防衛庁入庁。防衛政策局防衛政策課研究班長、防衛政策局戦略企画室総括班長、運用企画局国際協力課総括班長、大臣官房会計課企画調整官、大臣官房文書課企画調整官、蒙国防大学留学、九州防衛局企画部長を経て、昨年8月より現職。山梨県出身。

**講義概要** 今、日本を取り巻く安全保障環境は、戦後、最も厳しいと言っても過言ではありません。北朝鮮による核・ミサイル開発や度重なる挑発的な言動といった朝鮮半島情勢、軍事力の近代化を急速に進める中国の動向といった日本周辺の情勢を解説しつつ、こうした中で、日本を防衛するために必要な政策は何かについて説明します。今、日本周辺で何が起きており、日本はどうすべきかを考える、一つのきっかけにしてもらえたらと思います。

第4回

11/24  
[土]

13:30~16:30

## 地方自治の重要性とは何か?

森 民夫 *Tamio Mori*

前全国市長会 会長/前長岡市長

**プロフィール** 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。

**講義概要** グローバルに活躍できる人材とは、同時に現場の実態等のローカルな視点を併せ持つ人材である。国と地方の関係も同様であり、人口減少の進行、インフラの老朽化、頻発する自然災害等の諸課題に適切に対応するためには、国と地方との協力関係が必要不可欠である。この視点から長岡市の現場に即した政策、「子育ての駅」や「アオーレ長岡」等のユニークな政策について解説し、地方自治の重要性について具体的に考える。

## 【パネルディスカッション】我が国が直面する構造改革と社会資本整備

森 民夫 *Tamio Mori*

前全国市長会 会長/前長岡市長

パネリスト

**プロフィール** 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。

米倉 博史 *Hiroshi Yonekura*

(株)みずほ銀行 産業調査部公共・社会インフラ室 室長

パネリスト

**プロフィール** 1998年慶應義塾大学経済学部卒、日本興業銀行(現みずほ銀行)入社。主計部を経て、M&Aファイナンス営業部にて企業の各種M&Aに対するアドバイザー、ファイナンス業務に従事。その後、法人営業にて空運業界を担当。産業調査部にて、空運・海運業界の産業アナリストを経て、2017年4月より現職、観光分野等も担当。ミシガン大学MBA(2011年)。趣味：クリケット

原田 文代 *Fumiyo Harada*

(株)日本政策投資銀行 国際統括部 担当部長 兼 女性起業サポートセンター長

パネリスト

**プロフィール** 平成4年に入行後、地域開発プロジェクトや発展途上国等への技術支援、海外企業の対日投資、日本企業の対外インフラ投資等を担当した後、国際金融公社にて東アジアのインフラ整備に従事し、DBJシンガポール副社長を経て2015年2月より現職。海外中心に多様なバックグラウンドを持つ人材のマネジメントを経験し、種々の女性起業支援に携わるとともに、アジア関連ビジネスを担当。

五十嵐 浩也 *Hiroya Igarashi*

筑波大学教員(芸術系・教授)/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長

コーディネーター

**プロフィール** GKインダストリアル・デザイン研究所、富士ゼロックスデザイン研究所を経て、筑波技術短期大学聴覚部デザイン学科、そののち現職。